

『東京に於ける愛市運動』

東京愛市聯盟 [編]

東京愛市聯盟残務整理所 [刊]

1937年6月 109頁 図書番号 OA-0489

「愛市運動」とは選挙の肃正、市政浄化を目指した市民を中心とする運動であり、1936（昭和11）年3月、青森市議会議員選挙において結成された青森市愛市同盟がその嚆矢とされている。愛市運動はその後全国に広まったが、1937（昭和12）年3月の東京市議会議員選挙に向けて行われた運動についての記録が本書である。

東京市会はその発足以来、疑獄の発生と刷新を繰り返してきた歴史を持ち、1937年の市議会議員選挙においても汚職議員の排除や不正の防止は重要なテーマであった。

こうした懸案に対応すべく、1937年1月、選挙肃正中央連盟の提案に賛同した6人の元東京市長（尾崎行雄、阪谷芳郎、永田秀次郎、伊澤多喜男、市來乙彦、堀切善次郎）を呼びかけ人として「東京愛市聯盟」が結成された。

連盟は特定の人物を「優良候補」として推薦するようなことをせず、もっぱら市民の愛市精神に訴え、その政治意識を高めることを目的とした運動を展開した。特に宣伝活動においては「奇抜」と思える方法をいくつも取り入れている。建国祭における飛行機からの宣伝ビラ・玩具鞆付パラシュートの散布、「愛市ガール」による「愛市マーク」の街頭販売、「東京愛市行進曲」・「東京愛市音頭」のレコード作製、などである。これら活動の具体的内容に関しては、本書の「東京愛市聯盟本部篇」に詳しい。

このような愛市運動の推進は、市議会議員選挙において、棄権率の低下（前回39・8%から36・6%）と新人議員の増加（当選160名中新人が69名）という結果をもたらした。また革新勢力の躍進もめざましく、市政革新同盟は15名中9名が当選し、社会大衆党は選挙前2名だった議員を22名に増やしている。この選挙結果を連盟は「既成勢力の古風な縄張りが新しい市民の自覚によつて置換へられた時代を作つた」として高く評価している。

東京市議会議員選挙に向けた愛市運動は最終的に大きな成功を収めたが、その要因として、本書は「愛市運動が自主的市民運動として終始したこと」「この運動が飽くまで啓蒙運動、教化運動で進んで行つた点」「職業組合が愛市運動の大傘下に登場し、其の職業を通じて市政浄化に邁進し非常な効果を収めた事」「婦人団体の活発果敢な活動」の4点を挙げている。

愛市運動が女性団体や職業組合の協力と、奇抜な宣伝方法によって大きな効果を上げたことは事実であろう。また、選挙違反の可能性や運動への反発を回避するため、「優良候補の擁立、推薦」といった直接的な手段を取らなかったことも結果的には適正な選択であったといえる。ただし、選挙肃正中央連盟や政治家出身の元市長が音頭を取った運動を「自主的市民運動」と呼ぶことについては、考慮の余地があるのではないか。

なお、本館では愛市運動に関する他の資料として、『帝都の愛市運動』（堀切善次郎述、東京愛市聯盟発行、1937年）、『最近の愛市運動』（選挙肃正中央連盟編、1936年）、『愛市運動講演集』（伊藤博編、東京愛市聯盟発行、1937年）など15冊を所蔵している。ぜひ、興味のある方は参考にしていただきたい。

（井上学・市政専門図書館司書）